

令和5（2023）年度

科目別学習の手引き （シラバス）

Ⅰ 学 年

長野県松本美須々ヶ丘高等学校

1. はじめに

この冊子は、本校の各科目の学習内容を説明することによって、生徒自身が年間の学習計画をたて、将来の目標実現や進路学習に役立てることができるように、という願いを込めて作成されました。各科目の学習方法なども記載されていますので、自らの学習内容を事前に知り、学習に役立ててください。

2. 学習について

学習はなぜするのでしょうか。「こんな事をやっても将来使わない」という高校生の声をよく耳にします。しかし、それは違います。学習は見識を深め、思考力を高め、より人間らしく、論理的、主体的に社会で生きていくためにするのです。1年の時に理解できなかった数学の問題が、3年になるとすぐ理解できてしまうことがあります。それは、知らず知らずのうちに論理的思考力が備わったからなのです。確かに学習内容が直接社会で使われることは少ないかもしれませんが、学習を通じてこれらの「生きる力」を育むのです。

また高校卒業後の進路を考えたとき、就職であろうと大学進学であろうと受験には「学力」が必要です。君たちは将来の夢を模索しながら、惜しみなく努力すべき時期にあります。君たち自身の夢は、君たち自身でしか掴むことができませんし、高校生活はそのためにあるといっても過言ではありません。大学入試の出題範囲の約70～80%は、1、2年次の学習範囲であることも知っておいてください。全ての面で高校生活3年間の基礎をつくる大切な学年です。最低2時間の家庭学習を確保し、好スタートを切りましょう。

3. 単位認定について

- 1) 授業の遅刻と早退は2回で1回の欠課にカウントされます。
- 2) 単位不認定の科目があると、進級・卒業はできず、原級留置となります。
- 3) 定期テストを受験し、各教科の基準点を満たさないと、原則として単位は認定されません。詳細については、各教科担任に聞いてください。

4. 定期テストについて

- 1) 定期テストの追試は正当な理由がある場合を除き、原則として行いません。正当な理由がある場合は、必ず担任に申し出て指示を仰いでください。
- 2) 定期テスト1週間前からは、クラブ活動禁止期間です。下校時刻までに必ず下校し、学習に専念してください。重要な大会の直前などの場合は、顧問を通じて職員会の指示に従ってください。

5. その他

- 1) 学校を遅刻、欠席する場合は、必ず連絡してください。
- 2) 以上のことは保護者の方にも、ぜひ話しておいてください。

教 科	国語				
学 年	1 学年	科 目	現代の国語	単位数	2
担当者	1 学年担当 国語科教諭				
達成目標	①漢字・語句等基礎学力の養成。【知識・技能】 ②近代以降の様々な文章の読解を通じて、柔軟な思考力、適切な判断力やコミュニケーション力を養う。【思考・判断・表現】 ③日本語に対する認識を深め、生涯にわたって自己を向上させる意識や言語活動を通して積極的に他者や社会に関わる態度を養う。【主体的に学習に取り組む態度】				
教 材	教科書「高等学校 現代の国語」（第一学習社）その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	社会生活に必要な漢字や語句等の知識・技能を身につけて適切に使用できる。	直面する課題に対して自らの考えをまとめ、発表することができる。また、他者の考えを認識することで自分の考えや思いを深めることができる。	言葉を通して積極的に社会や他者と関わり、読書に親しむことで自己の向上につとめることができる。		
主な評価方法	・ペーパーテスト（事実に基づく知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題）の結果	・ペーパーテスト ・レポート ・グループでの話し合いや発表の場面での観察	・授業中の発言 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・課題への取り組み状況		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	「『本当の自分』幻想」 「羅生門」		中間考査	10 時間	
	「水の東西」 「日本語は世界をこのように捉える」		期末考査	10 時間	
2 学期	「夢十夜」 「日本の労働問題に関わる資料を読み比べる」		中間考査	15 時間	
	「現代の『世論操作』」 「城の崎にて」		期末考査	15 時間	
3 学期	「不均等な時間」 「鏡」 「ロビンソン的人間と自然」 「地域の魅力を紹介する」		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
○社会生活において必要とされるコミュニケーション力の基となる「言語」力を養うことを目的とした授業です。学習活動のねらいや目標を意識して積極的に授業に取り組んでください。 ○予習として本文を通読し、語句の意味等調べておくようにしてください。不明な箇所は授業内で確認し、復習を必ず行うようにしましょう。 ○「読む」「書く」はもちろんですが、「話す」「聞く」活動も行います。各自の思いや考えを伝え合うことで思考力や表現力を磨いてください。 ○日頃から新聞や本などに接し、語彙を増やし表現力を高めるよう意識しましょう。					

教 科	国語				
学 年	1 学年	科 目	言語文化	単位数	3
担当者	1 学年担当 国語科教諭				
達成目標	①【知識・技能】古典を読むために必要な語彙力・知識を身につけ、本文読解に用いることができる。 ②【思考・判断・表現】読む・書くといった活動を通して、内容や展開を的確に捉えることができる。また、古人のものの見方や考え方に触れることで、自身の思いや考えを深め、それを適切に表現することができる。 ③【主体的に学習に取り組む態度】積極的に様々な種類の文章に触れることで、日本語の豊かさを理解し、自らが言語文化の担い手であるという自覚を養う。				
教 材	「高等学校 言語文化」(第一学習社) その他副教材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	古典や韻文を理解するために必要な語句や文法の知識を身につけ、時代背景や社会を知り古典作品を理解できる。	題材に関して自らの考えをまとめ、発表等を通して他者と共有できる。また、古人の考えを認識することで自己の思考を深めることができる。	言葉を媒介として積極的に古人やその生きた社会を理解しようと努め、自己の感性を豊かなものにしてしようとしている。		
主な評価方法	・ペーパーテスト(事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題)の結果	・ペーパーテスト ・ポートフォリオ ・レポート ・グループでの話し合いや発表の場面での観察	・授業中の発言 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・課題への取り組み状況		
進行計画(学習の内容)				配当時間	
1 学期	「児のそら寝」「絵仏師良秀」「芥川」 (古文を読むために1～3)		中間考査	15 時間	
	「東下り」「狐借虎威」「蛇足」 (訓読に親しむ 漢文を読むために)		期末考査	15 時間	
2 学期	「はしたなきもの」「中納言参りたまひて」 (古文を読むために4)		中間考査	23 時間	
	『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』 「自分の感受性くらい」「その子二十」「こころの帆」		期末考査	22 時間	
3 学期	「完璧」「先従隗始」「木曾の最期」「旅立ち」 唐詩(漢詩のきまり)		期末考査	30 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
○この科目では、現代の日本語の基になった古典や韻文を学ぶことで豊かな感性を育み、人生を豊かにすることが目的です。学習活動のねらいや目標を意識して積極的に授業に取り組んでください。 ○予習として本文を通読し、語句の意味等調べておくようにしてください。不明な箇所は授業内で確認し、復習を必ず行うようにしましょう。 ○授業内で、文法テストや古語テストを行います。すぐに身につくものではありませんので、その都度しっかり学習し覚えるようにしましょう。 ○課題・提出物は期限内に必ず提出しましょう。					

令和 5 年度 地歴公民科 シラバス

科 目	地理総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	「 高等学校 新地理総合 」(帝国書院)				
補助教材等	「 新編地理資料 」(とうほう) 「 新地理総合ノート 」(とうほう)				

1 学習の到達目標

世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解する。地理に関わる事象を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 1 授業で学習した事項は教科書準拠ノートで確認します。
- 2 知識を補充し、技能を高めるため、プリントや資料などを適宜配布します。
- 3 地図帳は必ず持ってくるように。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組み。○地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。○多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚。
主な評価方法	・定期考査 ・準拠ノートの提出 ・課題の提出・	・課題やレポートなどの提出 ・個人及びグループでの発表	・課題やレポートなどの提出 ・個人及びグループでの発表 ・活動の取り組み、振り返り

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	地図と地理情報システム	地球上の位置と時差 図の役割と種類	5	・地球上の位置の違い、時差は私たちの生活とどのように結び付いているのか。 ・地図や地理情報システムにはどのような役割や種類があるのか、また、私たちの生活にどのように役立っているのか考える。	・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。(a) ・地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。(c)
5	結び付きを深める現代世界	・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界	7	・国家の領域や国境はどのように定まっているのか、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのか理解する。 ・世界の国々は、貿易や交通、通信、観光などの要素によってどのように結び付いているのか考える。	・国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解し表現用としている(b) ・通信技術の発達と情報通信技術が生み出す格差について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。(c)
	生活文化の多様性と国際理解	・世界の地形と人々の生活		・人々はこうした地形とどのように関わり合っているのか、そして、世界各地ではどのような	・生活の舞台となる陸地、地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域について、

6		・世界 の 気 候 と 人々の生活	8	な生活が営まれているのか理解する。 ・人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのだろうか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。	よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究解決しようとしている。(c) ・気候が生活に与える影響、気温のしくみと分布の特徴、降水のしくみと分布の特徴について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を理解し表現しようとしている。(b)
7	生活文化の多様性と 国際理解	・世界の言語・宗教 と人々の生活	5	・言語や宗教は、人々の生活にどのような影響を与えているのか理解する。	・言語と民族の関わり、人々の生活への影響を主体的に追究解決しようとしている。(c)
8 9	生活文化の多様性と 国際理解	・歴 史 的 背 景 と 人々の生活	8	・歴史的な背景は、人々の生活文化にどのような影響を与えてきたのか理解する。	・生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代の体制が与える影響を理解している。(a)
10 11	生活文化の多様性と 国際理解 地球的課題と国際協 力		11	・産業の発展は、人々の生活にどのような影響を与え、産業のグローバル化によって、人々の生活はどのように変化してきたのか。 ・世界ではどのような地球環境問題がみられ、どのような取り組みが行われているのだろうか。 ・世界の資源やエネルギーの利用の課題と、持続可能なエネルギーの利用方法について考える。	・世界標準を生み出す ICT 産業、産業構造の変化とサンベルトの台頭、シェール革命が世界に与えた影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。(c) ・地球環境問題の種類、地球環境問題の背景について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を理解し、主体的に追究、解決しようとしている。(b)(c)
12	地球的課題と国際協 力	・人口問題 ・食料問題 ・都市・居住問題	6	・世界には、どのような人口問題があり、どのような対策が行われているのか理解する。 ・食料需給の偏りが生じる原因と、食料問題を解決するために必要な取り組みを考える。 ・世界には、どのような都市・居住問題があり、どのような対策が行われているのか理解する。	・世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピラミッドからみる国や地域人口の特徴について理解している。(a) ・発展途上国の飢餓の問題、先進国に偏る食料の問題について、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。(c) ・都市の発達、大都市の形成と分布、都市内部の機能と構造について理解している。(b)
1	自然環境と防災	・日本の自然環境 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災	6	・日本の地形や気候には、どのような特徴があるのか理解する。 ・地震や津波による被害と地震や津波に備えてどのような取り組みが必要なのか考える。 ・火山がもたらす恵みと、火山災害に備えて、どのような取り組みが必要なのか考える。	・明瞭な季節変化、降水量の季節変化と地域差、日本の都市気候を理解している。(a) ・地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について、多面的・多角的に考察し、表現している。(b) ・火山の分布、火山の恵み、火山災害の特徴を理解し地理的技能を身に付けている。(a)
2	自然環境と防災	・気象災害と防災 ・自然災害への備え	6	・気象災害にはどのような種類があり、どのような被害をもたらすのか。また、気象災害に備えて、どのような取り組みが必要なのか考える。 ・災害発生時の危機管理体制は、どのように整備されているのか理解する。	・地域で異なる気象災害、都市化による水害の変化について理解しており、地理的技能を身に付けている。(a) ・災害の被害を軽減するための取り組み、防災情報の活用、巨大地震への備えについて、主体的に追究解決しようとしている。(c)
3	生活圏の調査と地域 の展望	・生活圏の調査と 地域の展望	2	・私たちの生活圏には、多岐にわたる地理的な課題がみられる。生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいのか考える。	・災害の被害を軽減するための取り組み、防災情報の活用、巨大地震への備えについて理解し、地理的技能を身に付けている。(a) ・被害を軽減するために防災情報の活用、巨大地震への備えについて、主体的に追究、解決しようとしている。(c)

令和 5 年度 地歴公民 科 シラバス

科 目	歴史総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	「現代の歴史総合 みる・読みとく・考える」（山川）				
補助教材等	「現代の歴史総合 みる・読みとく・考える ノート」（山川）				

1 学習の到達目標

社会事象への歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、近現代史への理解を深めるとともに、歴史に見られる課題を考察したり議論したりする力を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○中学校での歴史学習とは異なり、近現代（現在から 400 年前）頃からの歴史を学びます。日本史だけでなく、日本の歴史と相関関係のある国々の歴史も学んでいきます。
○日本史・世界史が主な学習内容となりますが、地理・政治経済の要素も含まれます。
○単なる暗記ではなく、自ら考え、理解していく姿勢を求めます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	○資料を適切に読み取ることができる ○近現代の世界史に関わる事象について、日本と関連づけながら適切に説明できる。	○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などについて、時期・年代・推移、相互の関連や現在とのつながりに着目して考察した内容を、文章や口頭発表などの形で表現できる。	○個人またはグループへ与えられた課題に対して、史料を活用したり他者と意見交流したりしながら主体的に解決を模索することができる
主な評価方法	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・発表など	・定期考査 ・提出課題 ・授業態度 ・発表など

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 月	第 1 章 結びつく世界と日本の開国 第 2 章 国民国家と明治維新	上述の教科書と副教材	15	1. 18 世紀の東アジアにおける 社会と経済 2. 貿易が結んだ世界と日本 3. 産業革命 4. 中国の開港と日本の開国 5. 市民革命	・諸資料から18世紀の東アジアにおける社会と経済の特徴を理解している。(a) ・18世紀の中国や日本と世界の結びつきについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。(c) ・人・モノ・情報の往来を通して、世界経済のなかで東アジアがより大きな位置を占めるようになったことについて考察している。(b)
6 7 月		上述の教科書と副教材	15	1. 国民国家とナショナリズム 2. 明治維新 3. 日本の産業革命 4. 帝国主義	・冒頭の資料や諸資料から、ペリー来航以降の国政の変化のなかで、政治参加の範囲が広がりを見せたことを理解している。(a)

				5. 変容する東アジアの国際秩序 6. 日露戦争と東アジアの変動 7. 第一次世界大戦の展開 8. ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭	・日清戦争までの東アジアの歴史的経緯、および戦後の東アジアがどのように変容したかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。(a) ・第一次世界大戦の特徴について、それまでの戦争と比較したうえで考察している。(b) ・第一次世界大戦が人々の生活や社会に与えた影響について考察している。(b)
8 9 月	第3章 総力戦と社会運動 第4章 経済危機と第二次世界大戦	上述の教科書と副教材	10	1. ヴェルサイユ体制とワシントン体制 2. 世界経済の変容と日本 3. アジアのナショナリズム 4. 大衆の政治参加 5. 消費社会と大衆文化 6. 世界恐慌の時代	・諸資料からヴェルサイユ体制・ワシントン体制の内容を理解している。(a) ・諸資料の読みとりを通して、日本の経済状況の変化について、時期を区分して考察し、表現している。(b) ・アメリカ合衆国で発生した大恐慌が、ヨーロッパ諸国や日本をどのように巻き込み、各国はどのように対応したのかという問いに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。(c)
10 11 12 月		上述の教科書と副教材	20	1. ファシズムの伸長と共産主義 2. 日中戦争への道 3. 第二次世界大戦の展開 4. 第二次世界大戦下の社会 5. 国際連合と国際経済体制 6. 占領と戦後改革 7. 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 8. 日本の独立と日米安全保障条約	・ファシズムが伸長した背景とその特徴を、イタリアのムッソリーニ政権とドイツのナチ党政権を比較しつつ考察し、表現している。(b) ・世界恐慌以降の経済危機と中国における国内変化が、日本の政治や軍事行動にどのような影響を与えたのかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。(c) ・諸資料から、国際連合の形成過程や目的、その実情や課題を、国際連盟と比較しつつ理解している。(a)
1 ・ 2 月	第5章 冷戦と世界経済	上述の教科書と副教材	10	1. 冷戦下の地域紛争と脱植民地化 2. 東西両陣営の動向と1960年代の社会 3. 軍拡競争から緊張緩和へ 4. 地域連携の形成と展開 5. 計画経済とその波及 6. 日本の高度経済成長 7. アジアのなかの戦後日本	・諸資料から、冷戦がアジア・アフリカ諸国に対して与えた影響および冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の反応を理解している。(a) ・アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国との関係の変化について考察し、表現している。(b) ・アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国との関係の変化について考察し、表現している。(c)

1

教科	数学				
学年	1	科目	数学Ⅰ	単位数	3
担当者	石川				
教材	教科書：高等学校 数学Ⅰ（数研出版） 問題集：チャート式解法と演習数学Ⅰ基本例題完成ノート（数研出版） 参考書：チャート式解法と演習数学Ⅰ＋A（数研出版）				
目標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価方法	・定期考査 ・単元テスト ・確認テスト、小テスト	・定期考査 ・単元テスト ・提出レポートの内容 ・問題演習	・授業、学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ノート、プリント、レポート等		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	数と式	式の計算	1. 多項式の加法と減法	27 時間	
			2. 多項式の乗法		
			3. 因数分解		
		実数	4. 実数		
	集合と命題	1次不等式	5. 根号を含む式の計算	23 時間	
			6. 不等式の性質		
			7. 1次不等式		
			8. 絶対値を含む方程式・不等式		
2 学期	2次関数	集合	1. 集合	1 学期期末考査	
		命題	2. 命題と条件		
			3. 命題と証明		
		2次関数とグラフ	1. 関数とグラフ		
	図形と計量	2次関数の値の変化	2. 2次関数のグラフ	25 時間	
			3. 2次関数の最大・最小		
		2次方程式と2次不等式	4. 2次関数の決定		
			5. 2次方程式		
データの分析	三角比	6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係	2 学期中間考査		
		7. 2次不等式			
		1. 三角比			
	三角比への応用	2. 三角比の相互関係			
3 学期			3. 三角比の拡張	25 時間	
			4. 正弦定理		
			5. 余弦定理		
			6. 正弦定理と余弦定理の応用		
			7. 三角形の面積	2 学期期末考査	
			8. 空間図形への応用		
			1. データの整理		
			2. データの代表値		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					0 時間
① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。					
② 「授業」において理解できない部分などは、授業担当者に積極的に質問すること。					
③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習における「復習」は不可欠。					
④ 演習の時間を確保するために授業の進捗等が変更になる場合がある。					
⑤ 「完成ノート」等の課題物は、定期的に提出を求める。					
⑥ 確認テストや単元テストを定期的の実施する。					

教科	数学								
学年	1	科目	数学A	単位数	2				
担当者	石川								
教材	教科書：高等学校 数学A（数研出版） 問題集：チャート式解法と演習数学A基本例題完成ノート（数研出版） 参考書：チャート式解法と演習数学I+A（数研出版）								
目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関 係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それ らを活用する態度を育てる。								
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度				
	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関 係について認識を深め、事象を数学化し たり、数学的に解釈したり、数学的に表 現・処理したりする技能を身に付けるよ うにする。		図形の構成要素間の関係などに着目し、図 形の性質を見だし、論理的に考察する 力、不確実な事象に着目し、確率の性質な どに基づいて事象の起こりやすさを判断す る力、数学と人間の活動との関わりに着目 し、事象に数学の構造を見だし、数理的 に考察する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとす る態度、粘り強く考え数学的論拠に基づい て判断しようとする態度、問題解決の過程 を振り返って考察を深めたり、評価・改善 したりしようとする態度や創造性の基礎を 養う。				
評価方法	・定期考査 ・単元テスト ・確認テスト、小テスト		・定期考査 ・提出レポートの内容 ・問題演習 ・提出ノートの内容		・授業、学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ノート、プリント、レポート等				
進行計画（学習の内容）					配当時間				
1学期					0 時間				
2学期	場合の数と確率	場合の数	1. 集合の要素の個数		10 時間				
			2. 場合の数						
			3. 順列						
			4. 組合せ						
3学期	場合の数と確率	確率	5. 事象と確率		2学期期末考査				
			6. 確率の基本性質						
			7. 独立な試行と確率						
			8. 条件付き確率						
			9. 期待値						
			図形の性質			平面図形	1. 三角形の辺の比		31 時間
							2. 三角形の外心・内心・重心		
							3. チェバの定理・メネラウスの定理		
							4. 円に内接する四角形		
	5. 円と直線								
	6. 2つの円								
	空間図形	空間図形	7. 作図						
			8. 直線と平面						
			9. 空間図形と多面体						
	総合演習		これまで学んできた内容から次年度以降につながる、 発展的な内容を扱う。		19 時間				
					3学期期末考査				
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意									
① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。									
② 「授業」において理解できない部分などは、授業担当者に積極的に質問すること。									
③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習における「復習」は不可欠。									
④ 演習の時間を確保するために授業の進捗等が変更になる場合がある。									
⑤ 「完成ノート」等の課題物は、定期的に提出を求める。									
⑥ 確認テストや単元テストを定期的実施する。									

教 科	理科				
学 年	1学年	科 目	生物基礎	単位数	2
担当者	1学年担当理科教諭				
達成目標	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
教 材	教科書：高等学校 生物基礎（数研出版） 問題集：新課程版リードLight生物基礎（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	生物や生物現象について、基本的な用語をはじめ、知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得を身に着けよ	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考・判断し表現力しようとしている。	粘り強く学習に取り組もうとしている。		
主な評価方法	・ 考査 ・ 実習レポート	・ 考査 ・ 課題	・ 提出物 ・ 課題		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	生物の特徴	中間考査	10 時間		
	遺伝子とそのはたらき（遺伝情報とDNA）	期末考査	10 時間		
2 学期	遺伝子とそのはたらき（遺伝情報の複製と分配）	中間考査	15 時間		
	ヒトの体内環境の維持	期末考査	15 時間		
3 学期	生物の多様性と生態系	期末考査	20 時間		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
生物基礎では、キーワードをよく理解し、それを使って生命現象を考えていくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。また実験・実習には、疑問をもって積極的に参加して欲しい。					

教 科	理科				
学 年	1 学年	科 目	化学基礎	単位数	2
担当者	1学年担当理科教諭				
達成目標	化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
教 材	教科書：新版 化学基礎（実教出版） 問題集：新インプレス化学基礎ノート（浜島書店編集部）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	化学や化学現象について、基本的な用語をはじめ、知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得を身に付けようとしている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考・判断し表現しようとしている。		粘り強く学習に取り組もうとしている。	
主な評価方法	・ 考査		・ 実習レポート		・ 提出物
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	物質の探究/物質の粒子		中間考査	10 時間	
	物質の粒子/化学結合		期末考査	10 時間	
2 学期	物質質量と化学反応式		中間考査	12 時間	
	酸と塩基		期末考査	12 時間	
3 学期	酸化還元反応		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
化学基礎では、キーワードをよく理解し、それを使って化学現象を考えていくことになる。問題集などを反復して取り組み、知識の定着に努めて欲しい。また実験・実習には、疑問をもって積極的に参加して欲しい。					

令和 5 年度 保 健 体 育 科 シラバス

科 目	体育	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

- ① 様々な運動を経験し、各種目に対する技術及び理論を習得する。また、健康の増進と体力の向上を図る。【知識及び技能】
- ② 運動の楽しさを感じることで生涯にわたってスポーツと関わる力を身につける。
【知識及び技能】
- ③ 他者と関わりながら体を動かすことに関して、自分の考えを広げたり、表現したりすることができる。【思考力・判断力・表現力】
- ④ 主体的に参加・運営することで積極的に運動に関わる態度を学ぶ。
【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 運動に積極的に取り組むこと
- 他者との関わりを大切にし、お互いでアドバイスをするなどの活動を通してスポーツの楽しさを感じる
- 安全に配慮して活動に取り組むこと（装飾品等を身につけない）
- 実技科目であるので、出欠席・遅刻・早退状況を重視する
- 授業の服装については学校指定のジャージ、シューズの着用を原則とする
- 水泳については補充をおこなう
- 体育理論は教室での座学とし、知識理解度を評価するためのプリント提出を課す

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・各種目のルールを理解し、運動の特性に応じた技能を身につけられたか。 ・自分及び仲間の安全に留意し実践できるか。	・合理的な練習方法や練習計画の立て方を理解し、知識を身につけることができたか。 ・自己や他者の能力を知り、解決に向け工夫や声かけができていくか。	・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で競技に取り組めたか。 ・積極的に準備や片付けを行い、自分及び仲間の安全に配慮できたか
主な評価方法	・タイム測定 ・実技テスト ・試合の様子	・練習の様子 ・実技テスト ・試合の様子 ・課題への取り組み	・授業へ取り組む姿勢 ・出欠席の状況 ・自己評価（振り返りシート）

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	30 時間	男女共通：体づくり運動 陸上競技 スポーツテスト 男子：ソフトボール／テニス 女子：バレーボール／バドミントン	【ネット型競技】 ・自分の身体や道具を使い、空いているスペースを有効に狙うことができる。また有効なスペースを作り出すことができる。(a) ・狙ったところにシャトルやボールなどをコントロールできている。(a) 【ゴール型競技】 ・空いているスペースを有効に使い、ノーマークを作り出したり効率よくシュートなどが打てたりしている。(a) ・スペースを作り出すための動きができる。(a) ・狙ったところにボールなどをコントロールできている。 【ベースボール型競技】 ・自分の身体や道具を使い、効率よく進塁するためにボールなどをコントロールしている。(a) ・キャッチやスローが正確にできる。(a) 【共通（その他の種目）】 ・課題解決ができ、技能や記録が向上したか。(a) ・運動の特性に応じた技能を身につけられたか。(a) ・ルールを理解できたか。(a) ・合理的な練習方法や練習計画の立て方を考えたり実践したりできたか。(b) ・自己や他者の能力に関心を持ち、課題解決のためにアイデアを出したり工夫したりしたか。(b) ・自分の身体に関心を持ち、苦手な運動であっても上達するために努力をおこなっているか。(c) ・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で各種目に取り組めたか。(c) ・準備片付けに積極的に取り組めたか。(c) ・自分及び仲間の安全に配慮できたか。(c)
2 学期	36 時間	男女共通：水泳 陸上競技 男子：バドミントン／バレーボール サッカー 女子：ソフトボール バレーボール／バドミントン フットサル	
3 学期	30 時間	男女共通：バスケットボール 卓球 体育理論 球技（選択） 男子：サッカー 女子：バレーボール／バドミントン フットサル	

令和 5 年度 保 健 体 育 科 シラバス

科 目	保健	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

① 健康や安全に興味関心を持ち、適切な意思決定・行動選択ができる。【知識及び技能】
② 健康について自分の生活と関連付けて考え、生涯にわたって健康な生活を送るため方法について学ぶことができる。【知識及び技能】
③ 健康についての自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。【思考力・判断力・表現力】
④ 生涯を通じて明るく豊かで活力ある生活を営むことができるようになるために、授業に主体的に取り組むことができる。【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○生きていくうえで重要な健康や安全についての内容になるので多面的、発展的な授業も展開されることもある。きちんと知識が身につくように学習すること。
○テストについては、授業中の板書や説明を理解しながら教科書主体で学習することが必要となる。
○グループワーク、ペアワークなどに積極的に参加すること。
○提出物の指示があった場合には、その内容、期限等、担当者の指示に従うこと。
○欠課時数については特に注意すること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・学習内容を理解し定着させることができたか。 ・新聞、本等で健康に関する社会の情報を得られたか。	・自己に応じた課題を探り、実践に繋げようとしたか。 ・仲間とともに課題解決にむけ、積極的に話し合えたか。	・日常生活における自分及び家族の健康に関心を持てたか。 ・生活習慣の改善等、健康の保持増進に向けて意欲を持てたか。
主な評価方法	・学年末考査 ・グループワークなどの学習活動	・学年末考査 ・グループワークなどの学習活動	・授業態度 ・出欠席の状況 ・課題などの提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	1 0 時間	現代社会と健康 1～7 骨格系・筋肉系	(a) 知識・技能 ・現代社会と健康、安全な社会生活について、それぞれの単元の健康課題について理解することができ、それらの解決方法について考えることができている。 また、必要な知識を身につけることができている。 (b) 思考・判断・表現 ・現代社会と健康、安全な社会生活について、それぞれの単元の健康課題について理解することができ、それらの解決方法についてグループワークやペアワーク、提出物を通し自分の意見を考え、表現することができている。 (c) 主体的に学習に取り組む態度 ・現代社会と健康、安全な社会生活について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 (グループワーク、ペアワーク、提出物など)
2 学期	1 2 時間	現代社会と健康 8～17	
3 学期	1 0 時間	現代社会と健康 18～19 安全な社会生活 1～3	

教 科	芸術				
学 年	1 学年	科 目	音楽 I	単位数	2
担当者	清 住 真 達				
達成目標	音楽の幅広い活動をととして、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
教 材	Mousal（教育芸術社）、愛唱歌集、音楽通論など				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	・表現および鑑賞に必要な音楽理論・音楽史を理解できたか。 ・個々の能力に応じた音楽技能を高めることができたか。	・音楽作品の特質をより深く理解し、掘り下げ、それを表現に繋げることができたか。 ・他の生徒の感じ方や考え方を尊重し共有また協調することができたか。		・自ら進んで積極的に課題に取り組むことができたか。 ・自らの課題を設定することができたか。	
主な評価方法	・実技テスト ・楽典小テスト ・授業観察	・課題提出 ・授業観察 ・実技テスト		・課題提出 ・授業観察 ・授業日誌	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	楽典・ソルフェージュ① 発声の基礎・歌唱		中間考査	10 時間	
	楽典・ソルフェージュ② 日本歌曲・簡易な合唱		期末考査	10 時間	
2 学期	楽典・ソルフェージュ③ 音楽史・鑑賞① アンサンブルの基礎		中間考査	15 時間	
	楽典・ソルフェージュ④ イタリア歌曲 ヴァイオリンの基礎		期末考査	15 時間	
3 学期	鑑賞② 日本の伝統音楽・民族音楽		中間考査	10 時間	
	楽典・ソルフェージュまとめ 発展的な合唱		期末考査	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
意欲的に取り組む姿勢を大切にする。また実技内容だけでなく、音楽から感じたことを言葉にする力、表現する力、また仲間とともに授業に臨む積極性、音楽に耳を傾ける姿勢を常に持つこと。提出物は必ず出し、持ち物など忘れ物のないようにすること。その他については担当者の指示に従うこと。					

教 科	芸術					
学 年	1	科 目	美術 I		単位数	2
担当者	担当 芸術科教諭 藤原 清華					
達成目標	美術の学習を通して造形的な見方・考え方を養うとともに、美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成する。					
教 材	教科書・スケッチブック・絵画用具用材・各種材料等					
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。					
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度		
	材料や用具、技法、様々な美術作品について正しい知識を身につけられたか	課題の趣旨や材料・用具の特性に応じて、創意工夫を凝らしながら作品を制作できたか。また、自分の作品の制作意図や、友人・作家の作品のよさを言葉にすることができるか		美術に関心を持ち、積極的に取り組むことができたか。作品制作において自らの表現を模索しながら最後まで粘り強く取り組むことができたか		
主な評価方法	・練習課題 ・ワークシート ・小テスト		・作品の出来栄え ・発表、鑑賞		・振り返りシート ・授業態度 ・作品の提出状況	
進行計画（学習の内容）					配当時間	
1 学期	【絵画】デッサン基礎			中間考査なし	10 時間	
	【絵画】色彩構成 【鑑賞】アートゲーム			期末考査なし	10 時間	
2 学期	【彫刻】表情のある手			中間考査なし	15 時間	
	【デザイン】情報をデザインする			期末考査なし	15 時間	
3 学期	【絵画・工芸】切り絵			中間考査なし	10 時間	
	【彫刻】ガムテープ彫刻			期末考査なし	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意						
アートとは「自分だけのものの見方」で世界を見つめ、「自分なりの答え」を生み出し、それを作品として表現することです。ただ作り方を学ぶのではなく「自分だけのものの見方」を試す練習、そして「自分なりの答え」を「作品」として表現する時間だと考えてください。 制作物については、丁寧に作ったか・工夫されているかを重視します。（工夫とは・・・自分で調べる・人に聞く・何度も試す・面白いアイデアを考えるなど）						

教 科	芸術				
学 年	1 学年	科 目	書道 I	単位数	2
担当者	書道担当教諭				
達成目標	書道の幅広い活動を通して、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書を愛好する心情を育て、感性を豊かにする。				
教 材	教科書・プリント・書道用具用材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	教科書に沿った書の古典学習等を通して基礎知識を身につけること。用具・用材の特徴を理解し、古典臨書学習を中心に学習しながら基本的な技能を身につけること。	作品制作を通じ書道理論を学習。古典や現代的表現等、多種多様な選択肢の中から自分らしい書を探してもらうこと。それらを通じて自己表現を確立。		創造的活動の喜びを味わい、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	
主な 評価方法	・練習課題 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート ・発表		・自己評価プリント ・授業態度	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	「書写」と「書道」・書体の変遷・用具の扱い方・執筆法		中間考査	10 時間	
	漢字の書の学習（楷書・行書）臨書を中心に		期末考査	10 時間	
2 学期	漢字の書の学習（篆書）臨書を中心に		中間考査	15 時間	
	姓名印の制作		期末考査	15 時間	
3 学期	仮名の書の学習（臨書）		中間考査	10 時間	
	漢字仮名交じりの書の創作		期末考査	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
単元ごとに提示された作品を仕上げ提出する（指定された期限までに必ず提出できること）。作品完成に至るまでの工夫や、技能的な向上、研究する姿勢も含め総合的に評価する。技術習得ばかりでなく、鑑賞力・着眼点・豊かな発想なども大切にする。自発的な準備や片付けの協力、及び用具等の管理は自分で責任持ってきちんとすること。					

教 科	英語				
学 年	1 学年	科 目	英語コミュニケーション I	単位数	3
担当者	1 学年担当 英語科教諭				
達成目標	日常的、社会的な話題について、話される速さや、使用する語句、又、情報量などにおいて多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み聞きし、意図や要点を把握し、それを論理的に話したり書いたりして相手に伝えることができる				
教 材	APPLAUSE ENGLISH COMMUNICATION 1 (開隆堂) DataBase3300 (桐原書店) Hyperlistening 4th edition(桐原書店)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	さまざまな分野の英語長文の読解を中心に、英語の総合力を伸ばすことができたか。	題材の内容理解を深め、背景等についても考えることができ、またその考えを発信することができたか。		予習をして意欲を持って授業に参加したか、また単語テスト、リスニングワークなどに積極的な態度で臨めたか。	
主な評価方法	・定期考査 ・ペアワーク	・定期考査 ・発表（スピーチ、プレゼンなど） ・グループ活動		・発問への応答 ・単語テスト ・リスニングワーク、提出物	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	Pre-Lesson L1 Amazing Scenery L2 The Mysterious History of Chocolate		中間考査	15 時間	
	L3 The Secretes of Top Athletes Word Power 1		期末考査	15 時間	
2 学期	L5 The Symbol of Peace L6 Serendipity		中間考査	23 時間	
	Sound Right 1 Let's Try Scanning L7 The Secrets Hidden in Vermeer's Works Word Power 2		期末考査	22 時間	
3 学期	L9 The Dream of Special Makeup Let's Exchange E-mails		期末考査	30 時間	
	L10 Purifying Powder R tupera tupera Sound Right 2				
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
予習を前提として授業を進める。授業では内容把握以外にも音読、スピーチ、プレゼンテーションなどを実施する。定期考査以外にも単語テスト、リスニングテストを行う。家庭でも音読練習をすること。授業時には辞書を活用するので、必ず学校斡旋のウィズダム英和辞典かそれと同等の辞書を持参すること。通知表には皆さんへの観点別による到達度を3段階で表記します。A十分達成しています、Bおおむね達成しています、Cもう少し努力しましょう ※L4, L8は長期休業課題として扱います。					

教 科	英語				
学 年	1 学年	科 目	論理表現 I	単位数	2
担当者	1 学年担当 英語科教諭 ・ ALT				
達成目標	英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを適切に理解したり、伝えたりする基礎的な能力を養う。				
教 材	FACTBOOK English Logic and Expression I (桐原書店) 総合英語FACTBOOK これからの英文法(桐原書店)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	知識・技能 英単語、文法、語法などの英文を読むためのスキルを身につけることができたか。	思考・判断・表現 課題に対して自分で考え適切な判断をしているか。		主体的に学習に取り組む態度 出席状況は良いか、課題への取り組みは良いか、学習に取り組む姿勢は意欲	
主な評価方法	・授業観察 ・定期考査 ・暗唱例文テスト	・授業観察 ・エッセイライティング ・プレゼンテーション		・授業観察 ・グループペア活動 ・課題、提出物	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	Unit0～Unit 2 動詞、否定文疑問文、文型、時制、完了形		中間考査	10 時間	
	Unit3, 4 助動詞、受動態		期末考査	10 時間	
2 学期	Unit5, 6 不定詞、動名詞		中間考査	12 時間	
	Unit7, 8 分詞、比較		期末考査	12 時間	
3 学期	Unit9 関係詞		中間考査	10 時間	
	Unit10 仮定法		期末考査	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
予習を前提として授業を進める。授業では文法語法学習以外にも音読、スピーチ、プレゼンテーションなどを実施する。定期考査以外にも暗唱例文テストを行う。家庭でも音読練習をすること。授業時には辞書を活用するので、必ず学校給付のウィズダム英和辞典かそれと同等の辞書を持参すること。通知表には皆さんへの観点別による到達度を3段階で表記します。 A十分達成しています、Bおおむね達成しています、Cもう少し努力しましょう ※主にFACTBOOKワークブック等を使い文法語法学習を行います、教科書の関連文法のアクティビティーが適宜入ります。					

教 科	家庭科				
学 年	1学年	科 目	家庭基礎	単位数	2
担当者	学年担当 家庭科教諭				
達成目標	実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。				
教 材	「Creative Living 家庭基礎で生活をつくろう」 （大修館書店）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	自分や家族・家庭、地域・社会の役割を理解し、それらの充実・向上にむけて課題を解決するために必要な基礎的・基本的な知識と技術が身についている。	自分や家族・家庭、地域の生活、社会に関わる課題を見つけ、その解決のため思考を深め、工夫したり創造したりして、自分の考えをまとめ、判断する力を身につけている。		家庭生活について関心を持ち、その充実・向上をめざして主体的にとりくむとともに、実践的な態度を身につけている。	
主な評価方法	・定期考査 ・学習プリント	・定期考査 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表等の場面での観察		・授業中の発言内容やグループワーク、実習等の行動観察 ・振り返りシートの記述内容	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	消費生活 18歳で変わる消費生活、消費者トラブル 消費者の自立支援	中間考査		10 時間	
	家族・家庭 家族って何だろう 法律から見る家族・家庭	期末考査		10 時間	
2 学期	衣生活 人と被服のかかわり、快適な被服の条件 健康と安全を守る被服、衣服の手入れ	中間考査		15 時間	
	衣生活 被服の3R、被服製作	期末考査		15 時間	
3 学期	食生活 体と心を満たす食事、 栄養バランスのよい食事、5大栄養素を摂る	中間考査		10 時間	
	食生活 食品を安全に取り扱う、持続可能な食生活 調理の技を身に付ける（実習）	期末考査		10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・提出物（プリント・作品）は期限を厳守すること。 特に、被服製作作品は、必ず完成させ提出すること。 ・実習には積極的に参加すること。 ・調理実習では身支度を整えること。					

令和 5 年度 探究 シラバス

科 目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	—				
補助教材等	未来を拓く探究シリーズ 探究ナビ（ベネッセ）、本校作成各種プリント				

1 学習の到達目標

- 1、教科横断的な学習を通じて、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究の意義や価値を理解できるようにする。…【知識及び技能】
- 2、地域や国際社会、実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析して思考し、まとめ・表現できるようにする。…【思考力・判断力・表現力等】
- 3、探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、地域社会を支え、未来を創造しようとする態度を育てる。…【学びに向かう力、人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○教材は探究学習のテキスト「探究ナビ」（ベネッセ）を主に使用しますが、適宜、本校作成のプリントや ICT 教材なども使用します。学習する具体的な内容や方法は授業ごとに伝えます。

○内容や進度に応じて、学年全体・クラス・グループ・講座などの単位で活動します。

○自分の興味・関心、地域の課題、自分の進路にかかわることをテーマにして探究学習を進めます。学習の成果を、就職試験や入学試験に活かすことができます。また、自分の生き方や働き方に対する考えを深めることができます。

○調査のために校外に出かけることがあります。地域の人たちと交流することもあります。放課後や長期休業などを利用する時もあります。主体性やコミュニケーション力が求められます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・課題の発見や解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 ・探究の意義や価値を理解している。 ・地域社会の現状と課題に対する理解が深まり、問題意識が高まっている。	自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析し、思考して解決策を探り、まとめ・表現している。	・探究活動に主体的・協働的に取り組んでいる。 ・自分らしい自己の在り方、生き方を考え、自己実現を図ろうとしている。 ・異なる多様な意見や他者の考えを受け入れ、他者を尊重する価値観が身に付いている。 ・地域社会を支え、未来を創造しようとする態度が身に付いている。
主な評価方法	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・学習態度や課題の取り組み状況による評価 ・生徒の自己評価や生徒間での相互評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 ～ 7 月	課題を見つ ける。問い を立てる。 調査方法に ついて学 ぶ。	探究ナビ 本校作成教材	1 2	探究の基礎学習を学び、コミュ ニケーション能力や情報収集力 などの基礎的なスキルの向上と 自己理解、他者理解を深める。	3の学習評価に記述したことをもと に、本校所定の評価ルーブリックを 使い、知識技能、思考判断表現、主 体性の3観点を ABC の3段階で評 価を行う。評価の場面は精選して行 う。適宜生徒による相互評価も評価 に含める。
8 ～ 11 月	課題につい ての調査、 分析をしな がら、似た 探究テーマ についての 仲間を見つ けることで、 探究内容の 充 実 を 図 る。	探究ナビ 本校作成教材	9	調査方法が自分の探究テーマ に対して妥当なものであるか精 査しながら探究活動を進めると ともに、類似の探究テーマを設定 している生徒と切磋する機会も設 ける。発表の方法についても学 び、どのような発表方法であれ ば自分の探究内容が他者に効 果的に伝えることができるかにつ いても講演を通し各自で研究す る。	3の学習評価に記述したことをもと に、本校所定の評価ルーブリック を使い、知識技能、思考判断表現、 主体性の3観点を ABC の3段階で 評価を行う。評価の場面は精選して 行う。適宜生徒による相互評価も評 価に含める。
12 ～ 2 月	学年ごと の小発表会 を通して、改 善点を見つ け内容をさ らに充実さ せる。次年 度へつなげ る、振り返 り。	探究ナビ 本校作成教材	1 4	学級単位もしくは学年での発表 会を通し、意見や質問などを出し てもらい、それを踏まえさらに充 実した探究となるよう、教員や AI チャットボットなどのアドバイスを 受けながら内容の補強を図る。 次年度につながる探究計画書も 最終的に作成する。	3の学習評価に記述したことをもと に、本校所定の評価ルーブリック を使い、知識技能、思考判断表現、 主体性の3観点を ABC の3段階で 評価を行う。評価の場面は精選して 行う。適宜生徒による相互評価も評 価に含める。